

チャペルだより

与えること

まもなくS.P.F.です。日ごろ準備してきたクラブ活動やその他の活動を多くの皆さんに披露する時です。それぞれの与えられた場で、良き働きができるよう願っています。S.P.F.は、与える側と受ける側の交流の場です。この両者のバランスがS.P.F.を成功させる一つのポイントであると思います。バランスと言うと、人数的なことが真っ先に思い浮かびます。生徒数に対して来校者数が少なかったり、逆に多かったりと。でも、わたしが言うバランスとは、人数のことよりもその内容です。主催者側の与える催しに対して、来校者が満足感を覚えるという意味です。主催者側は、当然、喜んでもらおう、楽しんでもらおうと思って展

示や出展をするはずで。また来校者は、何かしらの楽しみを求めてやって来ます。この両者の思いが一致した時、S.P.F.は成功したと言えるわけです。ところが一致しないことがあります。主催者側が自分たちだけで盛り上がり、来校者への配慮が足りなかったり、逆に、来校者の方の期待しすぎや求め過ぎなど、いろいろな原因が考えられます。しかし、S.P.F.の主催者は立教新座の生徒一人一人で、来校者はお客さんです。ですから、まずは、わたしたちの方が誠心誠意を配っていくべきでしょう。すなわち、相手に「与える」とはどういうことか?を考えてみる必要があると思います。わたしたちは、与えたことに対して見返りを求めてしまいます。もちろん、その必要があるケースもあります。でも、与えることの基本は、無報酬で、自分本位にならず、相手の立場に立つということではないでしょうか。キリスト教精神の一つは、まさにそれです。「・・・へり

くだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい」(フィリピ2:3-4)とされていますように、何はともあれ、まずは相手のことを考えて行動することが求められています。こういう気持ちで与えれば、受ける方は決して嫌な気持ちにはならないでしょうし、仮に、S.P.F.が思っていたとは違う状態でも、気持ちよく見たり聞いたりしてくれるでしょう。これがバランスであると思います。

間もなく開催されるS.P.F.において、皆さんの立教生らしい与える精神を大いに発揮してもらいたいと思います。

チャプレン 西海 雅彦

〈2011年度 入試日程〉 〈立教新座中学校〉

	一般 第1回	帰国児童	一般 第2回
募集定員	男子約100名	男子若干名	男子約40名
出願	郵送	1月5日(水)~1月18日(火)	消印有効
	窓口	なし	2月3日(木)
入学試験	1月25日(火)		2月4日(金)
合格発表	1月26日(水)		2月5日(土)
	掲示・郵送		掲示のみ
入学手続	1月28日(金)		2月5日(土)
	2月3日(木)		

〈立教新座高等学校 推薦入試〉

募集定員	男子 約20名
出願	1月5日(水)~8日(土) 必着(郵送のみ)
入学試験	【一次】書類審査 【二次】1月22日(土)
合格発表	【一次】1月15日(土)【二次】1月23日(日)
入学手続	1月28日(金)

〈立教新座高等学校 一般入試〉

募集定員	男子 約60名
出願	1月18日(火)~26日(水) 消印有効(郵送のみ)
入学試験	2月2日(水)
合格発表	2月3日(木) 郵送・掲示
入学手続	2月8日(火)

〈学校説明会日程〉

11月21日(日)

〈中学校〉 ①9:30~ ②11:30~

〈高校〉 13:30~

* 自家用車での来校はお断りします。

* 参加申し込みは不要です。時間までに本校にお越し下さい。上履きは不要です。

行事予定 ~中学校~

11/1(月)	S P F 代休
2(火)	秋季休業 (~6)
11(木)	3年収穫感謝礼拝
14(日)	1年社会科校外学習
17(水)	1年収穫感謝礼拝
18(木)	2年収穫感謝礼拝
20(土)	1・2年音楽祭
21(日)	学校説明会
12/3(金)	イルミネーション点灯式
6(月)	期末試験 (~8)
9(木)	1年美術特別授業・2年芸術鑑賞会
10(金)	スポーツ大会
16(木)	2年人権学習
17(金)	1年芸術鑑賞会
20(月)	英語スピーチコンテスト
21(火)	2学期終業礼拝・保護者学級会
22(水)	冬季休業 (~1/7)
23(木)	1年社会科校外学習
25(土)	スキー学校 (~29)
1/8(土)	3学期始業礼拝・宿題試験・英語実力試験
11(火)	1・2年学力テスト・3年GTEC
13(木)	2年聖パウロ回心日礼拝
19(水)	1年聖パウロ回心日礼拝
20(木)	3年聖パウロ回心日礼拝

行事予定 ~高校~

11/1(月)	S P F 代休
2(火)	秋季休業 (~6)
8(月)	3年卒業論文提出日
11(木)	2年収穫感謝礼拝・3年英語標準学力試験
15(月)	3年収穫感謝礼拝
18(木)	学生会会長選挙・1年収穫感謝礼拝
21(日)	学校説明会
25(木)	3年学年末試験 (~30)
27(土)	1年進学クラス説明会
12/3(金)	イルミネーション点灯式
6(月)	1・2年期末試験 (~10)
9(木)	3年登校日
21(火)	2学期終業式、3年クリスマス礼拝
22(水)	冬季休業 (~1/7)
25(土)	スキー学校 (~29)
1/8(土)	3学期始業式、宿題試験
13(木)	2年聖パウロ回心日礼拝
27(木)	1年聖パウロ回心日礼拝

〈2011年度入試要項(願書)の配布について〉

	立教新座中学校	立教新座高等学校
販売	立教新座中学校・高等学校正門右手(門衛所)にて販売しております。販売時間: 8:00~20:00(土、日、祝日も販売) 入試要項: 1部1,000円	
郵送申込	入試要項: 1部1,000円 送料: 1部 390円(切手) 2部 580円(〆) 3部 580円(〆)	入試要項: 1部1,000円 送料: 1部 390円(切手) 2部 580円(〆) 3部 850円(〆)
	封筒に「中学校入試要項請求」と明記し、現金書留で下記に請求してください。	
外国在住の方	海外への送付方法につきましては、入試・広報課までお問い合わせ下さい。	

Campus News Rikkyo Niiza 第51号

編集: 立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課
発行: 立教新座中学校・高等学校

〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 ☎048-471-2323(代表)



Campus News Rikkyo Niiza

ホームページアドレス <http://niiza.rikkyo.ac.jp/>

〈No.51〉

特集 — クラブ活動～文化部～ —

文化部活動について

立教新座中学校高等学校には、中学に10、高校に18の文化系のクラブ（文化部）があります。内容も多岐にわたるのが文化部の特色の1つです。研究中心のクラブは5種類以上あり、芸術系、音楽系のクラブも複数あります。礼拝奉仕を中心としたクラブもあります。中高合同で活動しているクラブが

多いことも文化部の特徴です。6学年の生徒がそれぞれ意見を出し合い、それを共有することで、研究や練習の方向性が見えてくることもあります。

これらの特色あるクラブの中から、生徒達は自分の興味・関心にあったクラブを選び入部し、熱心に活動を続けています。その成果は、さまざまな研究発表会やコンクール等で発揮されており、優秀な成績を残している部もたくさんありま

す。文化部の活動の様子をごらんになりたい方は、ぜひ文化祭（S.P.F.セントポールズフェスティバル）にいらして下さい。2010年度は10月30、31日に開催されます。それぞれのクラブの研究成果や練習成果をごらんいただければ、文化部の楽しさをおわかりいただけると思います。部員一同、心よりお待ちしております。

文化部長 和泉 利香



立教新座の文化部一覧

※ ○……………中学校
●……………高等学校

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|----------|
| ○● 英語部 | ● クワイヤー／オルガニストギルド | ○ 理科部 | ○● 映画研究会 |
| ● 演劇部 | ○● 写真部 | ● 生物部 | ○● 鉄道研究会 |
| ● 音楽部 | ○ チャペル・ギルド | ○● 美術部 | ● 落語研究会 |
| ● 化学部 | ● アコライトギルド | ○● 地歴部 | ○● 吹奏楽部 |
| ● 観測部 | ● 新聞部 | ○● 文芸部 | ● ジャズ研究会 |

化学部

クラブ活動の一日

化学部クラブ活動の目標は、自らが興味や関心を抱いていることを科学的手法を用いて、積極的に探究し、物質の素晴らしさを知ること。それに基づき、日々、各自が自由に研究テーマを決め熱心に研究し実験をおこなっています。そんな化学部生徒の姿をご紹介します。

化学部顧問より

化学部は、放課後の週3回、化学実験室に集まることにしています。そこに集まることは、第一のステップです。そして、各自が自由に研究テーマを決めることにしており、授業で行った実験の延長線上にあるものから大学で行うようなテーマまで幅広く対応しています。皆さんの中には、授業の実験と侮る人がいるかもしれませんが、決してそのようなことはありません。ごく普通の実験の中にこそ、いろいろな宝物が潜んでいるものです。授業では、実験手順の説明などを含めて50分で収まるように計画されていますが、自分で行う実験の場合は、計画や準備そして片付けに8割～9割の力が注がれるものです。そのようなことを知ってこそ、初めて実験の奥深さを理解できるようになります。実験以外のこととして、化学に関わる情報を提供するようにしています。例年、理化学研究所などの見学会や合宿、私学文化祭への発表などを行っています。今春実施した理化学研究所見学会では、本校OBの本林健太君（東京大学大学院博士後期課程在学中）に研究室を案内してもらいました。また、立教大学理学部の先生を直接訪ねてご指導頂く活動も実施できました。このように、化学部は、自らの疑問を解決したいと考えている諸君をサポートしています。



実験室の全景



準備ディスカッション



薬品の計り取り



溶液の滴下



化学発光の実験



薬品の片付け



Grignard反応の実験

オーストラリア短期留学

今年のオーストラリア短期留学は楽しかったという言葉につける。現地のレストランはみな自分をやさしく迎え入れてくれた。料理もおいしく、またいろいろな場所に連れて行ってくれた。特に印象に残っているのはホストマザーである。料理に使う肉はすべてコアラかカンガルーの肉という冗談がうまい人だった。

現地の学校は思い出のある場所のひとつである。現地の生徒はみな自分を快く受け入れてくれた。現地で友達が5人くらいはできたであろう。自分のバディが学校のフットボールのチームに所属していた。彼のチームメイトと共にトレーニングに参加できたことは学校での思い出の一つになった。ステイ最後の学校の日、「来てくれてありがとう、また会えたら会おう」とみな言ってくれた。この感動は今後忘れることはないだろう。また現地の先生も自分を受け入れて楽しい授業を提供してくれた。現地の学校である男性の先生と知り合いになった。その先生にオーストラリアステイ最後の平日の日に「名前を教えてください」と頼んだところ、メールアドレスまで教えてくれた。これも学校での思い出の一つである。

現地の学校の授業は日本にないものが多くあった。印象に残っているのは体育と歴史である。体育では他校と交流試合をしていた。日本ではめったにないだろう。歴史の授業では原住民のアボリジニの遺跡を巡った。日本の授業と現地の授業はまるで国土の大きさの違いを表すかのように規模が違う。海外に目を向けて異文化を楽しむ、この楽しさは海外に行った人だけが得られる楽しみだ。

またいつかオーストラリアに行きたいと思う。

3年4組 中川 隼



韓国小・中学生との交流

韓国の教育委員会の「科学英才教育院」というプログラムの一環で、7月30日(金)に韓国の小・中学生36名と先生6名が来校し、本校の施設見学や、本校の生徒と一緒に理科実験をし、本校生徒と交流しました。

理科実験授業では、韓国の生徒3、4名と本校生徒1、2名でグループを作り、協力してピタゴラ装置(エネルギーが移り変わる装置)を作成しました。

始めは、お互い何を話してよいのかわからない様子でしたが、各々作った装置を見せ合い、それらを合わせてひとつの装置にするという過程で、身振り手振りを交えながら英語でどんどん会話をしていく様子が見られました。

韓国の生徒たちは、夕方から別のプログラムがあるため、短い間しか本校に滞在できませんでしたが、実験が終わった後、連絡先の入ったメモを交換したり、一緒に写真を撮ったりしている姿が見られるなど、お互いに好きな理科実験を通じて、すっかり仲良くなっている様子を見ることができました。

好きな理科実験によって海外生徒との交流が図れた貴重な一日になりました。



宇宙を飛んだ ミヤコグサ

僕が動いたのは、JAXAのホームページを見たときで、偶然見つけた記事は『宇宙ミヤコグサ栽培』。宇宙の放射線が地上観察時にどのような変異をもたらすのか調べるといふものでした。それまで植物に興味はなかった僕のやる気に火をつけました。渡部先生に相談したところ、OKを出してください、生物の新田先生のご指導のもとでミヤコグサを観察することになりました。僕以外にも12名の仲間も集まり、手伝ってくれました。まず、ミヤコグサの栽培場所と

して、ツルハシを使い頑張って畑を作りました。かなり力作でしたが、ミヤコグサが思いの外小さかったため、結局使うことはありませんでした。また、夏は2日に1回水やりをしました。そして一番大変だったのは、収穫後の各個体の重量測定と種子を数えることで、1時間以上かけて頑張りました。しかし、発芽から収穫までで目立った変異は『子葉が3枚』ということだけでした。それでも、頑張って育てて変異が現れたことに感動を隠せませんでした。ミヤコグサ栽培の中で、自然や宇宙の不思議を改めて考えさせられました。

2年B組 齋藤 維吹



留学生の受け入れ

Brighton Grammar School より18名 9月19日~26日

9月19日(日)オーストラリアのブライトン・グラマースクールより18名の留学生が本校にやってきました。中2から日本語の授業を選択している生徒たちで、ウェルカムパーティーでは日本語で自己紹介をしてくれました。

学校では柔道、剣道、書道、そろばんなど日本の文化に触れる機会が多くあり、放課後も興味のあるクラブに参加して、たくさんの立教生と交流を深めていました。

休日はホストファミリーと一緒に過ごし、多くの日本文化に触れました。ボーリングや遊園地、家での花火を楽しんだり、中に

は人力車に乗ったり神輿をかついだ留学生もいたようです。

最終日のさよならパーティーでは、上手な日本語で感想や感謝の言葉を述べてくれました。中にはホストファミリーとの別れが辛くて泣いてしまう留学生もいました。

たった1週間のプログラムですが、また日本に来たい、日本のことがもっと好きになったと多くの留学生が語っていました。

双方にとって非常に実りの多いプログラムであったと思います。



寄宿寮OB会・記念碑の除幕式

9月11日、寄宿寮の跡地において寄宿寮記念碑の除幕式がおこなわれました。製作は卒業生三坂制氏で、当日は、たくさんの寄宿寮OBの方たちが集いました。



「夏！美術部」

文化部というと、少人数で細々と活動していると思う人が多いと思います。しかし、私たち美術部は、中学生9名、高校生は34名の大所帯です。クラブの雰囲気はとても良く、高校から入った私もすぐに慣れ親しむことができました。

さて、文化部は地味だという印象を持つ人が多いのではないのでしょうか。しかし、美術部は決してそんなことはありません。例えば、恒例の夏合宿などは運動部と兼部している私でも音を上げる程の厳しさです。特に今年の合宿は、夏真っ盛りの秩父市長瀨。私は3年間合宿に参加しましたが、これまでで一番の暑さを経験しました。

長瀨といえば、川下りで有名な観光地ですが、私たちは、川下りどころか川に入ることもできず、観光客の楽しむ姿を指をくわえて見ているだけでした。しかし、流石は長瀨です。すぐれたスケッチのポイントには事欠きませんでした。部員一同、熱心に取り組み、力作がたくさん生まれ、力がついたらと実感しています。

今はもう10月。高3の運動部員の多くは引退していますが、文化部はこれからが本番です。10月末の文化祭、そして後は埼玉県私学文化祭が控えています。私たち美術部の高3は、先輩たちの名に恥じないように、そして後輩たちの良き手本となることができると願っています。それでは文化祭でお会いしましょう！

3年3組 志村 周平



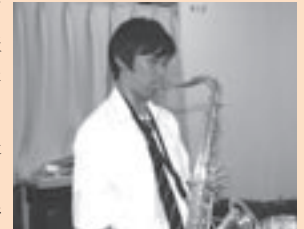
「ジャズ研 30周年記念」

ジャズ研究会は特に決まった活動日はなく、活動日は自分たちで決めるという少し変わった部ですが、部室は毎日部員で賑わい皆精力的に活動しています。そして、各バンドがジャズ、フュージョンなどの曲を中心に、ライブなどに向け練習に励んでいます。月に2回程度、プロのミュージシャンによる指導もあります。また、今年で創立30年を迎えた大変歴史ある部でもあります。

ジャズ研究会では、春と夏の年に2回、あわせてS.P.F.でもライブを行っています。今年はその他にも、クリスマスライブ、他校とのセッションやジャズ研30周年の記念イベントを企画し、記念イベントの際にはOBの方々と共にセッションも行いました。夏休みには、軽音楽やジャズのコンテストにも参加し、賞を頂くこともできました。

今年のS.P.F.でも、昨年と同様にジャズ喫茶「PIT INN」を営業します。ジャズ以外のポピュラーな曲も取り入れ、皆様が楽しめるような演奏を提供しようと計画しています。ジャズに興味がないという方も是非お越しください。

3年6組 横川 浩



キャンパストピックス

夏休みから秋にかけていろいろな活動をしました！

アメリカサマーキャンプを終えて

僕は今年の夏、初めてアメリカに行った。正直いろいろな不安と期待があった。

行きの飛行機ではわくわくして眠れなかった。飛行機が着陸、そこはサンフランシスコ。観光の翌日は飛行機でサンディエゴへ。空港からバスに乗り約二時間半、まわりには家は一軒もない。僕の班は日本人5人、アメリカ人8人とカウンセラー3人で「makizushi」という名前の班。キャンプでは野宿を3回した。1回目はいままで見たことのない量の星や流れ星を見て感動した。3回目の野宿では夜中2時半に起こされて、約2時間歩いて日の出を見に行った。正直疲れたけど、来てよかったと思った。そのほかにも顔に絵を書かれたり、Japan Dayでは折り紙を教えたり、夕日を見に行きみんなで絵を描いたり。一番の思い出は最終日夜のダンスパーティー。飛び跳ねてるだけだけど楽しかった。でもせっかく仲良くなった友達と明日別れると思うと寂しくなった。

キャンプ最終日。正直まだキャンプをしていたかった。キャンプ前は「ずっと観光でいいのに」なんて考えてた自分がありえないと思えた。みんなまで写真を撮り、別れを言った。手紙が来るのが楽しみだ。ホームステイや観光も楽しかったがやっぱりキャンプが一番楽しかった。日本に帰りたいと思わなかった。キャンプステイブンスでの1週間は今までで一番楽しく充実した毎日だった。「また行きたい」と思えるキャンプだった。

3年C組 南川 恵康



イギリス短期留学

今回、この短期留学を終えてまず思うことは、今までになくくらい良い経験だったということと、またそれをさせてくれた親に感謝の気持ちでいっぱいです。友達の中にも、そんな大金もつけないという人もいますが、今なら安いと自信をもって言えるほど良いものだったので、是非できるだけ多くの人にこの経験をしてもらいたいと思いました。

現地の人との会話は、毎回新鮮でもっとたくさんもっと上手に喋りたいと思っていました。ホストファミリーと電話した時や友達に言いたいことが通じる度とてもうれしく感じました。

毎日、授業を終えると街に繰り出していろんな物を食べ、いろんな所へ行きました。どこも日本とは全く違うので、楽しみが尽きませんでした。午後は、有名な場所へ連れて行ってもらいとても充実していました。

現地の語学学校の企画で、生まれて初めてディスコに行きました。とても刺激的で現地の音楽にも興味を持ちました。なによりディスコでは、みんなフレンドリーなので、外国の友達がたくさんでき、今でも連絡をとっていて、これはすごい財産だと思います。街中の公園がとても綺麗で、デートスポットが公園でも、これなら有りだと思えるほどでした。

この夏の大事な思い出を作れました。

3年3組 中川 太賀



全国高校化学グランプリ

「全国高校化学グランプリ」は、全国の高校生を対象として、化学の実力を競い合う大会である。1999年から始まり、今では約3,000名の生徒が一次選考の筆記試験にチャレンジしている。このうち、上位80名程度が実験試験の二次選考に参加する。二次選考の上位5名が大賞、続いて金賞15名、銀賞20名、銅賞40名である。さらに、次選考の上位者のうち高校2年生以下の場合には、国際化学オリンピックへの参加資格が与えられ、最終的には4名の生徒が国際大会に派遣される。

金賞 3年8組 高野 秀明
銅賞 3年8組 長井 幸輝



高校化学グランプリ金賞受賞

私が全国高校化学グランプリの存在を知ったきっかけは、自身が中学1年生のときに渡部先生が紹介してくださったことでした。先生から化学グランプリのお話を聞いた時、ただ単純にすごいと思い、自分も高校生になったらぜひ参加してみたいとずっと思っていました。全国の化学が得意な高校生がたくさん参加するこのグランプリの問題は高校では扱わないような分野から出題されていて（詳しい説明が問題文に書いてあるのですが、）私は高校1年、2年と受験しましたが、どちらの年も二次試験には到底届きませんでした。今まで悔しい思いをした分、高校最後の参加となる今年はかなり気合いを入れて臨みました。その結果、無事一次試験を通過して、二次試験に参加することができました。

二次試験は京都大学で一泊二日の内容の実験試験で、試験時間は240分、意外と時間たっぷりのように思えますが、数パターンの実験を行い、また、膨大なレポートを書かなくてはならず、すべてが終わったのも残り5分というところでし



た。実験終了後は他の参加者との懇親会があり、北は東北から南は沖縄まで、様々な地域から高校生が集まりました。参加者はそれぞれの理由・目標を持っていましたが、本番において全力を尽くそうという気持ちはみな同じでした。

結果発表の時とはとにかく緊張しました。そして金賞で名前が呼ばれたその瞬間、努力が報われたという喜びが込み上げて来ました。立教新座高校としても初の二次進出で、初の金賞受賞ということで、自分でも誇りに思っています。この化学グランプリでの経験は、自分の高校生活にとって貴重な体験になりました。これからはこの経験を生かして、さらに化学に対しての知識を深めていきたいと思っています。

3年8組 高野 秀明

鉄道研究会

鉄研に入ってから多くの人に聞かれること「鉄研っていつも何をしているの?」怪しい印象を持っている人もいるかもしれませんが、決してそんなことはありません。私たち中学鉄道研究会は、高校鉄道研究会と一緒に活動をしています。部員は、中高合同で20人、今年は5人の新生を迎えました。活動は、月・水・金曜日の週3回で、模型レイアウトの作成や部誌を発行しています。

鉄研の夏の大イベントは合宿です。毎年部員が投票で決めた地方私鉄に調査に向かいます。路線を調査する班、車両を調査する班、沿線と鉄道の関わりを調査する班などに分かれ、多方面から徹底的に調査します。今年は三重県の三岐鉄道へ行きました。この合宿の成果を報告するのが、鉄研のもう1つの大イベント、S.P.F.です。合宿報告の他に、緻密なダイヤに沿って運転をする鉄道模型の運転(詳しい方しかわからないかもしれませんが、中高鉄研として珍しいDCCを使用しています)、プラレールの展示を行っています。わかりやすく楽しい展示になるよう、鋭意制作中です。今年の展示にご期待ください!

中高合同で楽しく活動をしている鉄研は、設立から40年以上経つ歴史の長い部活です。部員のいない休部期間もありましたが、先輩方の呼びかけによって存続し、今では20人を超えるようになりました。

鉄道に興味のある方は、いつでも見学に来てください。そしていつまでもこの立教新座鉄研の歴史を受け継いでください。お待ちしております!

3年B組 高村 勇佑



中学吹奏楽部「金賞にも勝る銀賞」

こんにちは、立教新座中学校吹奏楽部です。

今年初めて部員数が中学と高校を合わせて50名を超えました。(現在56名です)そのため、今まで中高合同で出場していた夏のコンクールに、初めて中学生だけで出場することになりました。

しかし、中学生26名の約半数は楽器経験がほとんどない中学1年生。もちろん、コンクールに初めて参加する者ばかりなので、まずはみんなでコンクールの目標を決めました。『地区大会金賞』、みんながこの目標に向かって行くはずでしたが、なかなかうまく進みませんでした。日頃の練習態度で怒られ、志村先生の合奏練習はおろか、部活動自体が中止になることもありました。その都度、みんなで話し合いながら一つ一つの問題を解決して、みんなが少しずつ団結することによって、本番直前には息の合った良い演奏が出来るようになりました。

コンクール当日。半年間の練習の成果を7分間に込めなければいけないのは、残酷なように思えました。ステージの上では照明が眩しかったことと多くの観客に見られていることが印象的でした。いよいよ審査発表。部長だった僕は、各学校の代表生徒が集まる舞台袖に行きました。そこは、シーンと静まり返り、みんな期待と不安が入り交じった顔をしていました。結果発表は、銅賞、銀賞、金賞の順番に発表され、立教新座の番号は20番でした。

銅賞のとき、『19番、21番、...』と、立教新座の名前は呼ばれなかったのが、一瞬ふらっと来ました。期待する気持ちと諦める気持ちが入り交じりました。銀賞のとき、『13番、20番、...』と、立教新座の名前を呼ばれるとポカーンとしていました。仲間からの歓声でようやく我に返りました。審査発表終了後、みんなで喜びを味わいました。誰もが顔をぐしゃぐしゃにして笑っていました。僕たちにとって1年生から3年生全員で勝ち取ったこの銀賞は、金賞にも勝るものでした。

3年C組 村田 耀平

